

このたびの東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

3・11の大震災から一ヶ月以上が経ち、関東圏の生活者は放射性物質漏れの事故や、電力不足に関する問題について関心を持っているようです。現在生活者がどのような行動をとっているのか、また、懸念されている夏の電力不足に対する心配や対策についてどのように考えているのかを把握する為に、自主調査を行いました。

6. 懸念される電力不足に対して心配している内容と対策

- **全体的に暑さに関する心配や対策についてのコメントが多かった。**
- **心配している内容として**、全体では「**熱中症**」「**要冷蔵・冷凍の食品**」「**クーラーの使用**」「**通勤通学**」についてのコメントが多くみられた。特に、**単身者や子育て中の人は**、自分の**家族の体調**に関する心配や、**交通の乱れ**についてのコメントが見られた。一方**シニアは**、**もともと節電している**という人が多く、節電に対してはそれほど心配していないようだった。
- **考えている対策について**、全体では「**グリーンカーテン**」「**水風呂に入る**」「**早寝早起き**」「**窓を開ける**」などのコメントが多い。特に、**単身者や子育て中の人は直接身体を冷やす為の商品**(アイスノンや体感温度を下げるマットなど)を使用するなどのコメントが見られた。また、**シニアは扇風機の活用やクーラーの使用を控えたり使用時間を短くするなど暑さに関する対策ではなく、節電に関する対策**についてのコメントが多く見られた。
- コメントから、**シニア世代は節電に対してクーラーの使用を控えることを第一に考えており、さらにクーラーを控えても大丈夫、又は我慢できると考えている人が多い**。しかし、**単身者や子育て中の人の両親に対する心配として、クーラーを控えることで起こる体調不良(熱中症など)**が挙げられており、**ギャップが生じていることが見受けられる**。

<自由回答例>

- **心配している内容**
 - ・熱中症(子育て男性)
 - ・冷蔵庫の中の食品が傷む。(子育て女性)
 - ・暑さが苦手なため、エアコンの使用を控えるのはつらい。(子育て男性)
 - ・会社に行けるか心配(単身男性)
 - ・(両親について)高齢の為、エアコン使用を控えたことによる体への影響が心配。(単身男性)
 - ・クーラが使えないことによる熱中症(子育て男性)
- **考えている対策**
 - ・水撒きやゴーヤでカーテンを作ろうと思います。エアコンの代わりに扇風機を活用します(水や氷を入れて涼しい風がくるのを使います)(シニア女性)
 - ・子どもの熱中症に関しては、昼間は水風呂で遊ぶなどさせる(子育て男性)
 - ・ビニールプールで水遊び(子育て女性)
 - ・早寝、早起きを心がける。電気のむだ使いをしないようにする。(シニア女性)
 - ・窓を開放し、風通しを良くする。電気器具は以前から省エネ品にしている、庭の電気は太陽光発電を使用(単身男性)
 - ・首に汗取りを巻く、水をつけて使う高分子入りの首巻をつかう。日中は公共施設(図書館)やプールへ行く
 - ・麻混などの衣類が必要だと思う。(シニア女性)
 - ・冷蔵庫は保冷剤など使うつもり(シニア女性)
 - ・クーラーは使わない 炊飯器を使わずガスで炊く(シニア女性)
 - ・節電をする。一部屋に集まり、なるべくその部屋だけで電気を使う(子育て男性)
 - ・氷枕など、電気を使用せずに体を冷やせるグッズの購入を検討している(単身女性)
 - ・昼間はデパートに入り浸って過ごす(子育て女性)
 - ・充電式の扇風機等を探す。どうしてもダメな時は車内に避難する(エアコン)(単身男性)

<調査概要>

- **調査目的**: 2011年3月11日に発生した大震災の影響について、消費者の意識・実態を把握する
- **調査実施期間**: 2011年4月18日(月)~4月20日(水)
- **調査方法**: インターネット調査
- **対象者**: 栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県(計画停電が実施されたエリア)
- **サンプル数**: 1200サンプル

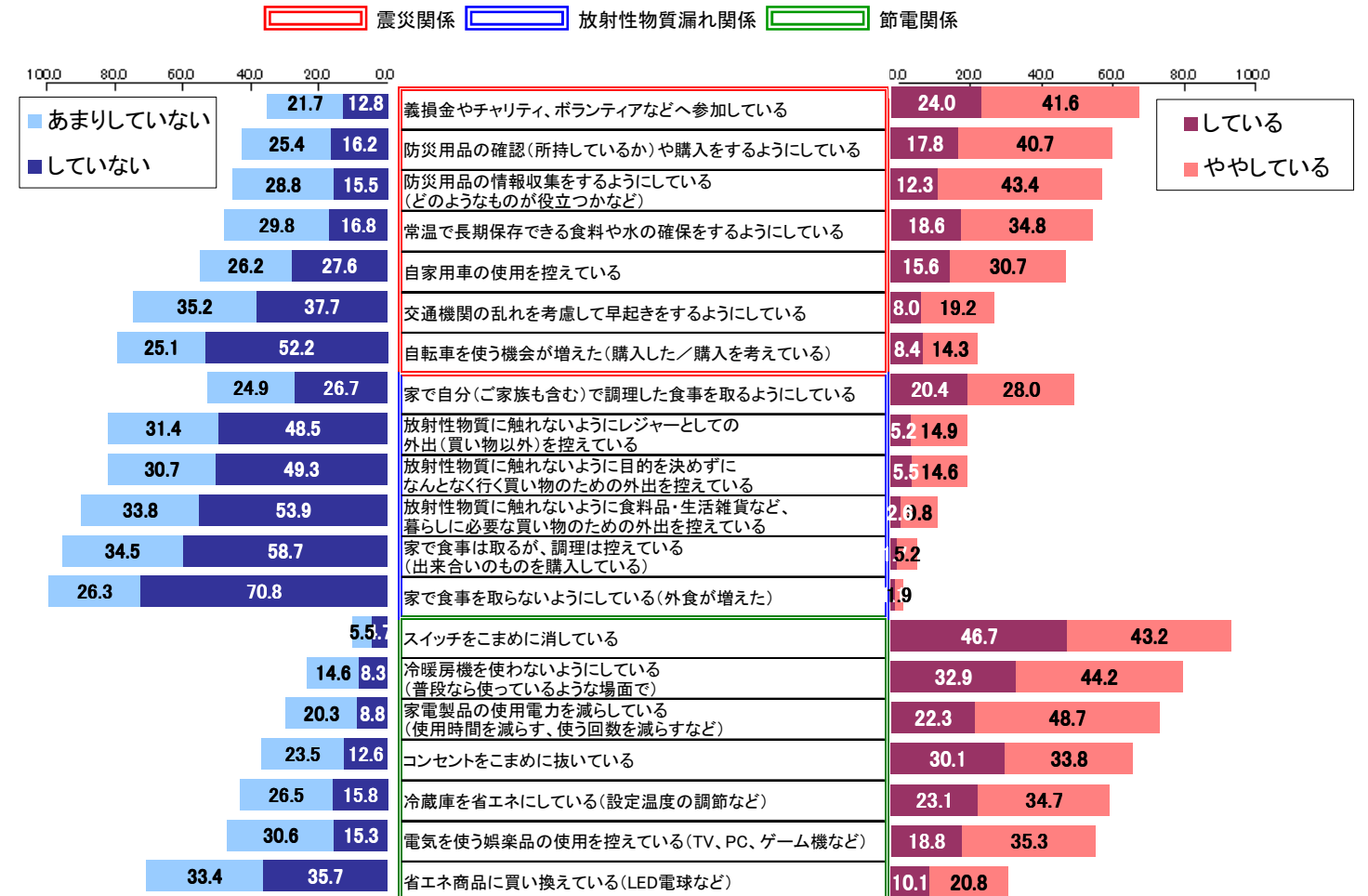
企画発行: 情報コミュニケーション事業本部 トッパンアイデアセンター マーケティング本部 消費行動研究室
TEL:03-5840-2520

【要約】

- 生活者が**意識的に変えている行動**について調べてみたところ、全体的に**暑さ対策や節電に関する行動**が震災に関する行動や、放射性物質漏れに関する行動よりも実際に行動を起こしている率が高いことがわかった。節電に関する行動では、省エネ商品への買い替えまではあまり行われていないが、家で簡単に出来ることを中心に意識的に行動を変えているようだった。また、**放射性物質漏れに関する問題**はニュースなどで騒がれているが、**実際に行動を起こしている率は低い**ことがわかった。
- **食料品や水に対する心配や対策**について調べてみたところ、外食産業やメーカーに対する心配よりも**家庭での管理や使用を心配**もしくは**対策**をしているという人の方が多かった。
- 家庭で**節電を余儀なくされた際にあつたらよいと思うもの**として、「**常温で保存できる食品・食材**」や「**長期間保存できる食品・食材**」などが9割以上の人に支持されていた。
- 電力不足になった際に**暑さを防ぐ工夫**については、**直接温度を下げる工夫や、感覚的に涼しく感じる工夫**を考えている人が**9割以上**だった。

1. 最近意識的に変えている行動について

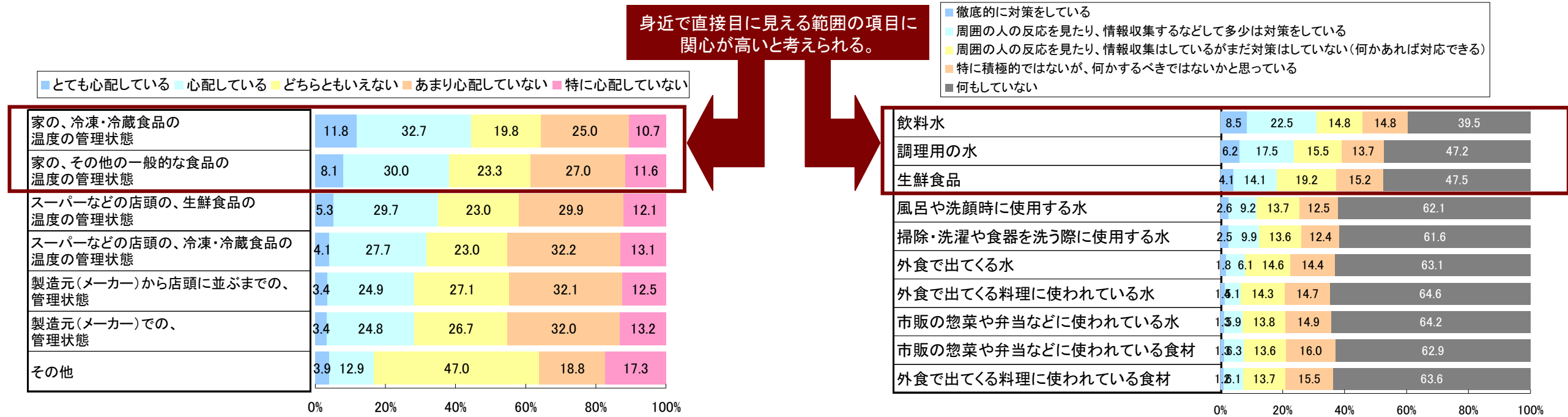
震災に関する項目で見ると、義捐金や防災用具の所持確認や購入、情報収集が上位になっていた。放射性物質の漏れに関する項目で見ると、約半数の人が家での食事が増えているという回答だった。また、節電に関する項目は、震災や放射性物質漏れに関する項目と比べて、全体的に高い傾向があり、特に家庭で簡単に出来ることから行っているようだった。



2. 懸念される夏期の電力不足問題における食料品に対する心配について

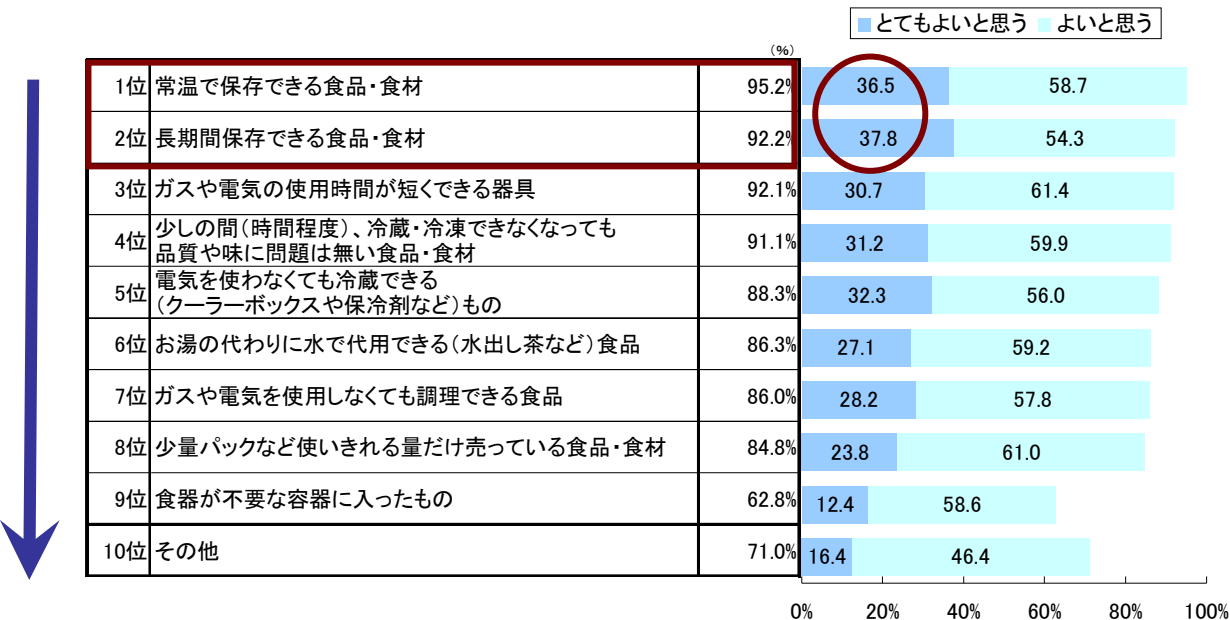
食料品の管理状態については、自宅での温度の管理状態について心配に思っている人が比較的多かったが、店頭や配送、製造元の管理状態に対してはあまり心配していないという人の方が多かった。また、放射性物質漏れによる水質・土壌汚染問題についても飲料水や調理用の水、生鮮食品については対策している人は比較的多いが、外食で出てくる水や調理用の水、食材、市販の料理に使われている水や食材については対策している人がほとんどおらず、家庭で自分自身で行える範囲のことについて関心が高いと考えられる。

3. 放射性物質漏れによる水質汚染について対策をしているもの



4. 家庭で節電を余儀なくされた際にあつたらよいと思うものランキング

ほとんどの項目で8割を超えていて、高い評価だった。その中でも「常温で保存できる食品・食材」や「長期間保存できる食品・食材」は9割以上の方がよいと思う、「とてもよいと思う」という評価も他の項目と比べても高くなっていた。



5. 電力不足になった際に暑さを防ぐ工夫について

「涼しい服装をする」については9割の人がやりたいと思っており、さらに5割強の人は準備も出来ていると回答している。また、ニーズが高くこれから準備が増えると予想されるものは「涼しくなるような料理を食べる」や「涼しく感じるアイテムを使う」などだった。さらに、「使用している電力を可視化する」については8割強の人がやりたいと思っているにもかかわらず、約5割の人が方法がわからないと回答しており、電力の可視化に対する要望に応える情報や製品の需要が増すと考えられる。

